



Winner of the Global Teacher Prize

印教員にグローバル・ティーチャー賞 女子児童の機会拡大



2020年グローバル・ティーチャー賞を受賞したランジットシン・ディサレ氏(右)に教わる女子児童

これだけは覚えておきたい!!

announce [əˈnaʊns]	～を発表する
celebrate [sɛləˈbreɪt]	祝う
be recognized for [rɛkəɡnəɪzd]	～で評価される、表彰される
promote [prəˈmóut]	～を奨励する、推進する
prize money [ˈpraɪz]	賞金

聴くこと、声に出すことが成長への近道!

🎧 編集長おすすめトレーニング

Practice 1 英文を見ずに、CNNの生英語(4)を聴いてみよう。
音声のダウンロード方法はpp.120-121をご覧ください。

Check!

Practice 2 英文を見ながら音声を聴いてみよう。
必要ならゆっくりスピード(ポーズなし(5)/ポーズ入り(6))も活用してみてください。

Practice 3 日本語訳を参考に内容を理解し、音声を繰り返し聴いて耳を慣らそう。
さらに、音声をまねながら音読すると、吸収力がグンと上がります。

プラスアルファ 余力のある方は、別冊付録の問題集にチャレンジしてみてください。

Winner of the Global Teacher Prize

Now, the 2020 Global Teacher Prize was announced on Thursday in London, Ranjitsinh Disale celebrating with his parents there—pretty excited. Now, he was recognized for promoting girls' education at his village school in western India. He's giving half the prize money to the nine other finalists so they can do good—it's about \$55,000 apiece—a truly kind gesture and a lesson for us all. What a good news story.

≫71 words (December 5, 2020)

印教員にグローバル・ティーチャー賞 女子児童の機会拡大

さて、2020年のグローバル・ティーチャー賞の受賞者が木曜日にロンドンで発表された。(受賞した)ランジットシン・ディサレ氏が(ご覧の映像の中で)両親と祝っているが——かなり興奮されている模様。ディサレ氏は、インド西部にある彼が勤務する村の学校で、女子教育を推進していることが評価された。彼は、最終選考に残った他の9人が各自の善い活動に生かせるように、賞金の半分を分かち合うつもりだという。その額は1人あたり約5万5000ドルとなる。これは実に思いやりのある行いであり、われわれ皆にとっていい教訓でもある。なんといいニュースだろう。

(訳 石黒円理)

リスニングのポイント

本当はカナ表記では正確な発音を表せないのですが、音の大体のイメージをつかんでいただくために、あえてカナ表記を用います。「聞こえ方」のひとつの目安にしてください。

文の出だしの弱い部分は、聞こえなくなることがある。

5行目のit's about ≫ [(イッ) ツバウ(ト)]

文の出だしの弱い部分は、聞こえなくなることがあります。ここでは、it's aboutが[ツバウ]のように聞こえます。it'sの最初の弱い母音が聞こえず、[ts]の音から始まっています。同様に、古い英語では、it isの短縮形として、'tisがありました。今でも、詩や方言などに残っています。最初の弱い母音が発音されず、[ティズ]のように聞こえます。助動詞のhaveやbe動詞のamも弱く発音されますので、文の出だしにある場合には、それぞれ[v]の音や[m]の音しか聞こえないことがあります。例えば、Have you ever...?が

カナ表記の中の太字は、強く発音される部分を表します。また、括弧に入っている部分は、普通、日本人の耳には聞こえないか、実際に発音されていない音を表します。

[(ハ) ヴューエヴァー]のように、Am I late?が[(ア) マイレイツ(ト)]のように聞こえます。ほかにも、Excuse me.の出だしの音節が聞こえなくなることがあり、[スキューズミ]のように聞こえて、(I)Scuse me.のようにつぶれることがあります。また、Of course.も、Ofが弱く発音されるため、(I)Courseのように発音されて、そのようにつぶれることがあります。

解説 南條健助(桃山学院大学国際教養学部准教授)